

まんさく

2019 Spring | <https://www.niimi-u.ac.jp>



Niimi University

2019年度『健康科学部1学部3学科』 スタート!

新見公立大学NiU 健康科学部：地域福祉学科・健康保育学科・看護学科

“中山間地域の地の利を生かし、新見だからこそその魅力ある大学に進化させていきます”



新見公立大学新棟建設 安全祈願祭ご挨拶

新見公立大学 学長 公文 裕巳



公立大学法人新見公立大学を代表いたしまして、ひとことご挨拶を申し上げます。まず、平成31年1月17日、大安の今日の日に、念願の新見公立大学地域共生推進センター

一棟の安全祈願祭、その神事が滞りなく執り行われましたことに心より感謝申し上げます。また、今回の地域共生推進センター棟の建設に温かいご理解とご支援を賜りました、池田一二三 新見市長、仲田康豊 新見市議会議長、林光和市議会議員をはじめ関係各位の皆様にご厚く御礼を申し上げます。

本年4月からの「人と地域を創る新見公立大学 新・健康科学部1学部3学科」の開設は、18歳人口の減少と大学間競争が激化するこれからの時代において、本学の持続可能な未来を切り拓くために必須の大学改革であります。同時に、本改革は、新見女子短期大学に始まり本学38年の歴史と伝統を基盤に、課題先進地・新見市にあることを地の利として、日本の中山間地域の地域共生社会の実現に向けて、次世代の保育、看護、介護、福祉のスペシャリストの育成と多職種連携の在り方を検証していくという新見公立大学が全国に発信する大いなる挑戦でもあります。

株式会社宮崎建築設計事務所の管理のもとに、建築主体工事特定共同企業体 片岡工業株式会社、宗宏工業株式会社、杉岡建設株式会社、電気設備主体工事特定共同企業体 株式会社中電工新見営業所、東亜電工株式会社、ならびに機械設備主体工事特定共同企業体 株式会社三備電業社、中村建設株式会社新見支店という、新見市を代表する錚々たる企業の皆様が本建築工事にご参加いただくことに感謝申し上げます。本地域共生推進センター棟が、皆様の英知と匠の技の結集により、新見公立大学の発展と新見市版地域共生社会の実現に向けて、学生、教職員ならびに地域の皆様とともに呼吸し、成長していく、魂の宿る学び舎と地域交流の場となることを期待いたしております。



地方共生推進センター棟完成イメージ図



外観



カフェスペース



看護実習室



講堂

地域福祉学科はこう変わります

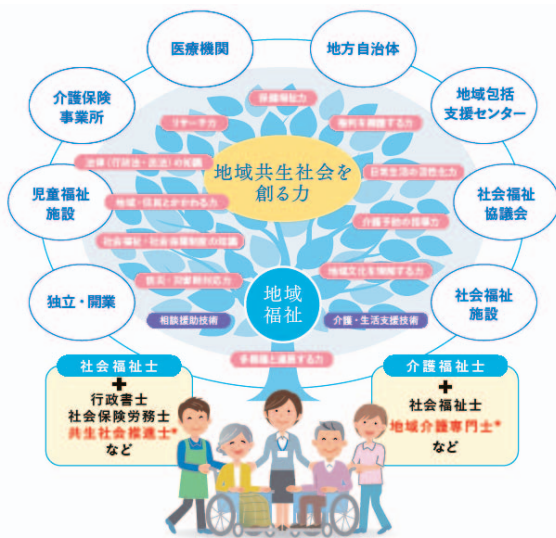
“21世紀型スーパー地域福祉人材”の育成

- 定員：50人
- 社会福祉士と介護福祉士をはじめとする複数の資格取得課程の設置

Q. どのような人材を養成するの？
A. 地域共生社会を支える福祉人材として、幅広く活躍できるよう、高い倫理観と知識・技術及びコミュニケーション力、地域や多職種と連携・協働できる力、生涯を通じて学び続ける力を身に付けた人材の育成をめざしています。

- 副専攻カリキュラム(共生社会推進士、地域介護専門士)の設置
- 防災士の取得

Q. どんな学修をするの？
A. 社会福祉、介護福祉に関する知識、技術、理論と倫理を体系的に学ぶために講義、演習、実習や地域での学修を行います。また、地域の福祉的課題を発見し、対応する力をつけられるよう副専攻を設置するほか、政策科学、法学、防災などの科目も配置します。



《学びのステップ》

1年	<ul style="list-style-type: none"> ・教養を高め、地域をフィールドにして地域文化を学修します。 ・対人援助職としての基礎知識、技術を学修します。 ・1年生後期にコースを選択します。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉、介護福祉に関する専門的な知識、技能を学修します。 ・選択により社会保険労務士、行政書士国家試験に関する科目を学修します。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等を通じて社会福祉・介護福祉の実践に必要な力を磨きます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学修の総合として地域福祉研究に取り組みます。

Q. 将来、どんなところで活躍できるの？
A. 地域共生社会の基盤をつくる“21世紀型スーパー地域福祉人材”として、地方自治体、地域包括支援センター、社会福祉協議会、社会福祉施設、介護保険事業所、医療機関、独立・開業など幅広い分野での活躍が期待されます。

《2019年度入試方法の概要（詳細は入学者選抜要項を参照）》

- 推薦入試での地域優先選抜枠の拡充

入試区分	募集人員		センター試験	個別試験	
推薦入試（専願）	全国公募	15人	不要	小論文、面接	
	地域枠	新見市内			5人
		岡山県内・県境			5人
一般入試	前期日程	20人	必要	小論文、面接	
	中期日程	5人	必要	小論文、面接	

健康保育学科に変わります

“就学前教育・保育のリーダー”の育成

- 定員：50人
- 発達障がい児の支援と病児保育を深く学修
- 推薦入試枠での地域優先枠の設置(新見市枠5人)

地域ぐるみで支えあう保育に携わる保育のリーダーとしての資質の育成に加え、新しい課題である、発達障がい児の支援や病児保育についての科学的・医療的な知識を身につけます。

こんな人材を育成します

健康保育学科では、保育者としての責任や使命の理解に努め、専門的知識、技術、コミュニケーション力を身に付けた人、地域の保育問題を発見、解決しようとする力や、保育者として生涯学び続けようとする力を身に付けた人材を育成します。

幼稚園教諭一種免許状、保育士資格、特別支援学校教諭一種免許状、社会福祉主事任用資格、児童福祉司任用資格*、児童指導員任用資格、家庭相談員任用資格、防災士受験資格（※児童福祉司に任用されるためには、単位取得のほかに、1年以上の実務経験が必要）

カリキュラムのねらい

健康保育学科では、保育園、幼稚園、認定こども園、児童福祉施設などで健やかな子どもの成長・発達を見守る保育者の育成を目指します。地域で育む子育て支援力の獲得と向上を目標として、教養と感性を磨き、思考を深め、自ら課題解決に取り組む力を高めることができるカリキュラムを設定しています。



《学びのステップ》

1年	・地域をフィールドにした地域文化、教養の学習に加え、保育者に必要な基礎知識・技術を学びます。
2年	・教育・保育・福祉に関する高度な知識や技術を身につけ専門性を高めるとともに、特別支援教育の学びを深めます。
3年	・チームアプローチ演習や特別支援教育、実習などを積み重ね、保育力や実践力を高めます。
4年	・病児保育や特別支援教育の実習、卒業研究などを通して、4年間の学びを集大成します。

主な進路

公・私立保育所、公・私立幼稚園、認定こども園、特別支援学校、児童福祉施設、企業（保育職）、地方自治体の子どもに関する支援機関、（子育て支援課、子育て支援センター、児童家庭支援センター、児童相談所、家庭児童相談室等）、大学院

《2019年度入試方法の概要（詳細は入学者選抜要項を参照）》

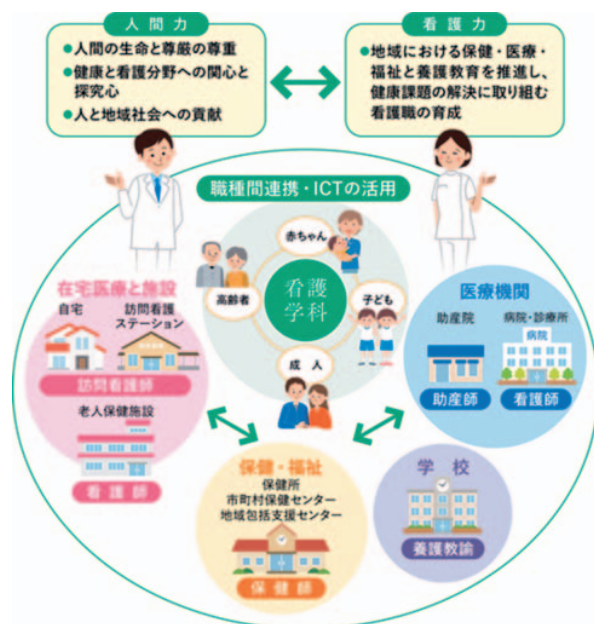
入試区分	募集人員		センター試験	個別試験
推薦入試（専願）	全国公募	20人	必要（国 / 数 / 外 / 地歴公民・理から1科目）	小論文、面接
	地域優先 新見市内	5人		
一般入試	前期日程	22人	必要（同上）	小論文、面接
	後期日程	5人	必要（同上）	面接

看護学科はこう変わります

“心と体の健康を支える看護専門職”の育成

2019年4月、定員80人(増員20人)になります

看護学科の増員のねらいは、学齢期の児童生徒の心と体の健康を支援する養護教諭養成課程（定員10人）の新設、高齢化率が40%を超える中山間地域の新見市にある大学として、在宅医療を担う「訪問看護・地域看護コース（定員5人）」を教育課程の正規科目として設置し、地域共生社会の基盤を支える人材を幅広く育成することです。本看護学科は、短期大学の時代からの看護職養成の精神を継承し、学部開設時の「人間力」「看護力」を教育課程の基盤として、あらゆる世代の健康支援と健康課題の解決を担う看護職の育成を目指します。



《学びのステップ》

1年	<ul style="list-style-type: none">・人間力を高める教養科目を学修します。・地域に住む方々の生活や健康課題とその支援への理解を深めるために地域をフィールドにした学修をします。・看護に必要とされる基礎知識・技術を学修します。
2年	<ul style="list-style-type: none">・看護を展開するために必要な専門的な知識と技術を学修します。
3年	<ul style="list-style-type: none">・看護実践に必要な能力と態度を養います。・チームアプローチ演習と臨床看護学、看護の探求と発展の科目を学修します。・保健師教育課程、又は養護教諭養成課程又は訪問看護・地域看護コースを選択した人はそれぞれの専門科目を学修します。
4年	<ul style="list-style-type: none">・看護の質向上に必要な知識と方法論を学修します。・臨地実習、保健師教育課程の公衆衛生看護学実習、養護教諭養成課程の養護実習、訪問看護・地域看護コースの訪問看護実習を学修します。・4年間の統合として卒業研究を学修します。

看護学の視点を持った養護教諭を養成します

2019年度入学生より、児童生徒の健康を支える専門職として、自律性・柔軟性・創造性、教育力を兼ね備えた養護教諭1種の免許をもった養護教諭を養成します。学校現場での実践的な指導力を修得するため、看護学の基礎教育を修了しつつある4年次後期の10月に、新見市内の小学校や中学校で養護実習を実施します。児童生徒の心と体の健康の支援をとおして、健康教育の専門家としての教育実践力を身に付けます。

全国初！訪問看護・地域看護コースを開設します

2019年度入学生より、多職種連携のできる看護職の育成を目指し、正規科目として開設します。本コースは、看護学科の3年生から4年生にかけて履修し、在宅看護論の学修を深化させ、訪問看護師として地域で活躍するために必要な知識・技術と共に多職種連携とその基盤となるICTや社会資源の活用について学修します。コース修了者には、本学独自の「訪問看護・地域看護コース修了証」が授与されます。卒業後は、新卒から訪問看護ステーションで活躍する人材、病院において、退院支援に強い看護師としての役割を担う人材、地域包括ケアシステムの中核を担う人材として活躍することができる看護職を育成します。

地域福祉学科

最後の介護実習を終えて

2年次生 江田 奈穂子

最後の実習として、障がい者支援施設で4週間、居宅介護事業所で1週間の実習をしました。

障がい者支援施設での実習は初めてだったので、不安や緊張の気持ちがとても大きかったです。しかし、今までの実習の中で最も多くの利用者の方と深く関わることができ、とても楽しい実習となりました。そして、今まで学修してきた技

術・知識をその方に合わせて応用するために基礎を身につけることの重要性を改めて感じました。

居宅介護実習では、利用者の方のお宅に訪問してその人に合わせた介護をすることの難しさを感じました。また、家族や地域の方などの関わりを大切にしながら、介護をすることも重要であることを学ぶことができました。

これらの学びや経験を就職後も活かしていきたいです。



土下座祭りに参加して

1年次生 池本 彩夏

私たち地域福祉学科1年生は、毎年10月15日に举行される土下座祭りに参加させて頂きました。朱鷹たたら先生、吉村淳子先生のご指導のもと、篠笛、鈴、太鼓の練習を積み重ね本番に臨みました。

当日の街中は私の予想をはるかに超える大勢の地域の人で賑わっており、これ

が伝統行事なんだと実感しました。街中を歩き演奏をしていると地域の方が私たちのことを温かく迎えてくださり嬉しかったです。地域の方の人数に圧倒されながらも笑顔で楽しく、みんながひとつになり練習してきたことをそれぞれが発揮して演奏することができたように思います。今年の土下座祭りでも良い演奏ができるように頑張りたいと思います。

お餅つき

1年次生 新田 瑞季

12月5日(水)に地域福祉学科の1年生と2年生で、高瀬地区の方々に教わりながらお餅つきを行いました。

昔は旧正月のお祝いで、よくお餅つきをしていたことなど、お餅つきに関する思い出や慣わしなどをたくさん教えていただきました。お餅つきは、杵と臼を使って行いました。食べてみると食べ応え

があつて、とても美味しかったです。この交流を通して、地域の方の昔の暮らしぶりや歴史などについて学ぶことができました。

高瀬地区の方々とは、お餅つきの他に蕎麦まきや蕎麦刈りなどでも交流があったり、たくさんの白菜を頂いたり、とてもお世話になっています。今回学んだことを介護福祉士になった時に、役立てていこうと思いました。



兵庫県立 明石南高等学校

第27回

母校自慢

1年次生 山本 美悠

私の母校は総合学科といって、幅広い選択科目の中から自分で科目を選択することができ、生徒の主体的な学習を重視するという特色のある学科からなっています。ディベートといわ

れる肯定・否定の二組に分かれて行う討論や課題研究では、論理的な思考力を培いました。総合学科発表会では一年間に学んだことを発表しました。このほかにも職業体験や職業人にお話を聞くなどの、ほかの学校ではできない体験をすることができます。

高校で学んだ論理的な思考力やさまざまな貴重な体験を活かして、介護福祉士になれるように頑張ります。

初めての保育実習を通して得たもの

1年次生 秋月 涼把

子どもに関わる仕事に就きたくて保育の道に進み、また、新見公立短期大学で保育士を目指す姉の姿をみて「私も姉のようにになりたい」と思い本学に入学しました。しかし予想を超えて講義内容が難しく、実習前は不安で溢れていました。

実習中には「もっと積極的に子どもと関わるように」と指導を受けましたが、初めはその言葉の真意を十分に理解できず、人見知りの子どもとは距離が縮まら

ずにいました。どうにか距離を縮めたくて何度も名前を読んだり、目線を合わせることで段々と話しかけてくれたり、私の膝の上に乗ってくれるようになりました。この時はじめて、積極的に関わるとはどういうことを理解し、保育士の積極性の大切さを学ぶことができました。また実習中に多くの失敗を重ねましたが、その度に子どもたちの元気な声や笑顔に助けられました。大学での講義中にも「子どもが助けてくれる」という言葉をよく聞いていたのですが、まさにこのことだと実感することができました。子どものおかげでいつの間にか実習前に溢れてい

た不安も消えていました。

初めての实習は多くのことを学び、自己課題を見つけることができたと同時に、改めて保育という仕事の素晴らしさに気付くことができました。実習で学び感動したこと、失敗し反省したこと等は私の一生の宝物となりました。そして、これから保育の道に進む私にとって、大切な財産となると思います。



「平成30年度 中・四国保育学生研究大会」に参加して

2年次生 宇山 奈穂、浦川 利佳、久保 咲月
新開 深友、村竹 由梨、森田 雄斗

私たち住本総研は、2018年12月1日に行われた中四国保育学生研究大会で、「いのちの教育」という研究テーマで口頭発表をおこないました。研究方法は、A市の園の先生方にアンケートに答えていただき、その結果を8つのテーマに分類し、それぞれのテーマについて考察を深めるというものでした。

大会当日は、自分たちの研究してきたことを多くの方々に聞いていただくことができ、とても嬉しく感じました。また、発表後には他大学の先生からご講評をい

ただき、この研究に対しての新たな課題も見つけることができました。

発表を無事に終えることができたのは、ご指導くださった先生方や園の先生方のご協力のおかげです。ありがとうございました。

今回の研究で学んだことを活かし、今後は立派な保育者となるよう努めていきたいと思っています。このような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

2年間の集大成「にいみゆめのぼけっと」の発表を終えて

2年次生 栗田 理紗、河嶋 優茉、河本 遥菜
高橋 蓮、長谷川 璃舞

12月8日は、私たちが2年間を通して学んできた、表現発表の集大成である「にいみゆめのぼけっと」が開催され、多くの地域の方々にご来場いただきました。私たち仲間5人は、ミュージックパネルの方法で「さんびきのこぶた」のお話を発表しました。みんなが知っている物語を選んだので、表情や声色の変化に気をつけることや、役になりきって演じるということに意識して練習を行いました。

本番では、物語の世界に入り込み、私たちの言った言葉に反応してくれる子どもや、歌声に反応して見に来る子どもなど、様々な子どもの様子を近い距離で見ながら演じることができ、とても良い経験になりました。また、最初は緊張して

いたけれど、目の前にいる子どもたちを見ると自然と緊張が解け、笑顔になって楽しむことができ、充実した時間となりました。この「ゆめのぼけっと」で学んだことや感じたことを忘れず、保育現場での活動に活かしていきたいです。



健康科学部看護学科

精神看護学援助論 見学実習を終えて

2年次生 竹本 侑夏

2年生の12月に初めて精神科病院に実習に行かせていただきました。入院患者さんに対し、どのようにコミュニケーションをとればよいかわかりませんでしたが、積極的に話しかけることができました。実習を通して学んだことはあいさつと



非言語的コミュニケーションはととても大切だということです。あいさつをすることで患者さんとのコミュニケーションが始まります。言葉で話すだけでなく、

うなずきや相槌、沈黙などの非言語的コミュニケーションを使うことで患者さんに合わせたコミュニケーションがとれます。あいさつと非言語的コミュニケーションはいつも、人と話すときに普通に行っていますが、改めてコミュニケーションをとる上で大切であると感じました。

どのような患者さんであっても、今回学んだことをいつも意識しながら患者さんとコミュニケーションをとってきたいです。

LINKtopos に参加して

2年次生 本田 瑞季

私たち5名は10月6日から3日間、静岡県で開催されたLINKtoposに参加し、「新見塩から子育て事業」のボランティア活動についてのポスター発表をしました。3日目に学生及び全国の学長との交流タイムで発表し、学長や他大学の学生

と意見交換しました。他大学の学生の素晴らしい発表姿にとっても強い刺激を受け、声の大きさ、トーン、発表の構成など全身でその活動を伝えようとしている姿はとてがかっこ良かったです。何より何百人の前で堂々と誇らしく語れるものを持っていることをうらやましく感じました。私も自ら人のため、自分のために活動したいと思いました。LINKtoposは、学生に色々

なものを与えてくれる場だと改めて感じ、後輩へ繋いでいけたら嬉しいです。



LINKtopos(リンクトポス)とは、全国の公立大学の学生で組織される「公立大学学生ネットワークLINKtopos」のことを言います。この活動は、2011年の東日本大震災の際の復興ボランティアとして参加した学生たちが自主的に集まったことを契機に始まりました。以後、毎年学生大会が開催さ

れ、災害支援や防災に留まらず、地域活動を行っている学生らが全国から集まり、ワークショップ等を通じて研鑽や交流を図っています。また、この大会は、全国公立大学学長会議と同じ日程・同会場で行われており、学長との交流や議論もなされています。



卒業生と語る会

3年次生 大本 紗弥香
小林 桃子

看護学科3年生を中心に企画・運営した「卒業生と語る会」では、看護師・保健師・助産師の先輩方3名からお話を聞かせていただきました。交流会では、学生達が就職や国家試験に対する不安・悩みなどについて多くの質問や相談をし、

先輩方はひとつひとつに親身になってご助言してくださいました。

学生にとって、この会は、これからの大学生活をどう過ごしていくべきなのかを考える有意義な時間となりました。先輩方から頂いたご助言を生かし、自分たちが選んだ進路を、自信を持って歩んでいけるようにこれからの大学生活を励んでいきたいと思います。

カンボジアスタディツアー に参加して

1年次生 金月 有紗

5日間の研修旅行では、アンコールワットなどの遺跡巡りやアンコール小児病院の見学など多くの経験ができました。私が最も印象に残っているのは、NPO「HERO」の訪問で'Smile Kids'という小学校の健康診断の見学とお手伝いをさせていただいたことです。日本とは全く違

う環境で生活している子どもたちを診察している様子はとても興味深く、国によってケアの重視する内容が違っているなと感じました。私たちは、身長・体重・体温の測定を行い子どもたちと接しました。子どもたちはクメール語を話すため言葉が通じず最初は戸惑いましたが、人見知りすることのないカンボジアの子どもたちに助けられ、

日本の子どもたちとはまた違った力強いパワーを感じることができました。



助産学専攻科・大学院看護学研究科

助産学実習で印象に残った言葉

助産学専攻科 越智 結子

2018年4月に助産学専攻科に入学し、7月より実習がスタートしました。実習では、私の力不足で思うようにできず、悔しく悩むこともありましたが、同級生に支えられながら乗り越えることができました。さらに、自分自身の課題をクリアできたときや妊産婦さんと良好な関係

を築けたときは、また一步助産師に近づけたと嬉しく思うこともありました。実習の中で、指導者さんにかけていただいた『助産師は有能な黒子』という言葉が強く印象に残りました。「メインは妊産褥婦さんであり、助産師は妊産褥婦さんが輝けるように全力を尽くしてサポートしていただく」という意味であり、すごく感銘を受けました。

実習の中で多くを学ばせていただいた妊産褥婦さんや指導者さん、先生方への感謝の気持ちを忘れず、同級生全員で国家試験に合格して、妊産褥婦さんが輝けるように支えることのできる助産師を目指して頑張っていきたいと思います。



助産学実習で一番心に残っている事

助産学専攻科 安部 瑞生

約半年間の実習を終えて一番心に残っているのが、分娩介助の10例です。指導助産師さんと密に連携をとりながら、お母さんや赤ちゃんの情報をアセスメントし、必要なケアや考えられるリスクを配慮しながら、お母さんの力を発揮できるお産を目標としていました。しかし、

「もうしんどいから、帝王切開にしたい」と言われた時には、どういう声かけや、寄り添い方をすれば良いのかわからなくなりました。実習が進むにつれて悩むこと「もっとこうすればよかったかもしれない」と思うことも多くなりました。そんな時支えてくれたのは先生方や専攻科の友人、指導者の方です。何一つ誰一

人同じお産はないので、他の人の経験や助言を頂きながら実践する事も本当に勉強になりました。これら全ては自分自身の財産であり、就職しても忘れず、活かしていきたいと思っています。

大学院での学び

大学院看護学研究科 中藤 香織

私は企業の健康管理室で産業保健師として働いています。看護の対象は働く社員の方で、ほとんどの方は疾患を持っていません。勤務年数を重ねるにつれ、健康上に大きな問題がない社員に対する看護とは何か、その役割や意義について悩むようになりました。

大学院へ入学した当初は地域医療と産業看護の繋がりをあまり理解しておらず、授業での学びと仕事が結びついていませんでした。地域医療について学び、考えていく中で対象者が望む場所で生活できることの大切さや、それを支えることができる今の仕事に意味があると少し感じられるようになりました。

大学院生活もあと一年となりました。ゴールはある！と信じて頑張ります。



「高齢者ケア特論」から学んだこと

大学院看護学研究科 桑原 ひとみ

履修してきた科目の中で私は「高齢者ケア特論」が心に残っています。本や資料をとおして高齢者の生き方や死への向かい方、高齢者を取り巻く社会環境などを改めて学ぶことができました。診療所看護師として日々高齢者と関わることが

多いので理解できていると思っていましたが、知らない言葉もたくさんあり常に



新しい社会の動向などにも関心を持ち続けなければいけないことがわかりました。どれほど想像してみても高齢者の経験した悲しみなどを同じように感じることはできません。自分とは違う他者であり、自分とは違う時代を生き抜いた年長者であることを忘れずにいたい。これからも大好きな高齢者の方々が笑顔で暮らせるよう看護師としてできることを考えていきたいと思えた授業でした。

同窓会 だより

同窓会事務局からのお知らせ

同窓生の近況を
報告します。



同窓会開催のお手伝いをします

卒業生の皆様と同窓会を開催される際、大学がそのお手伝いをさせていただきます。

学部・学科と卒業年度及び開催時期などを本学学務課へお知らせいただければ、同窓会の案内を発送し、出欠を取りまとめて、同窓会幹事へ連絡をします。同窓会を企画されている幹事の皆様、ぜひご連絡をください。

ご寄付をいただきありがとうございました

本学創立40周年に向け、卒業生の皆様方に一口1,000円の寄付をお願いいたしましたところ、平成31年1月末現在、個人229人、2団体から総額658,620円のご寄付をいただきました。同窓会へ多額のご寄付をいただき、誠にありがとうございました。皆様のご寄付に対しまして心よりお礼申し上げます。

今後とも、会員相互の交流を深め、絆を強め、活発な同窓会活動を行うため、同窓会員皆様のご理解ご協力及びご寄付を引き続きお願い申し上げます。

同窓会評議員会のお知らせ

新見公立大学・短期大学同窓会評議員会は本学の大学祭「鳴滝祭」にあわせて5月18日(土)に開催する予定です。役員の皆様のご出席をお願いいたします。なお、ご案内は後日させていただきます。是非「鳴滝祭」もお楽しみください。

多くの卒業生が
来学してくれています!!



恩師や母校を懐かしんで訪れてくれるだけでなく、後輩たちへの激励や職場での研究活動における助言・指導を得るため、結婚する友人へのサプライズ動画撮影など、様々な目的で母校に戻ってきてくれています！

News & Events

学内のお知らせ
イベント案内

行事予定

- 2019年4月 7日(日) 入学式
- 2019年4月20日(土) 入試説明会(本学)
- 2019年5月18・19日(土・日) 鳴滝祭
- 2019年5月21日(火) 入試説明会(ピュアリティまきび)
- 2019年7月15日(海の日)・28日(日) } オープンキャンパス
- 2019年8月25日(日)

2020年度入学者選抜試験日程

【大学】

健康科学部

- 地域福祉学科
 - 推薦入試 : 2019年11月30日(土)
 - 一般入試(前期日程) : 2020年 2月25日(火)
 - 一般入試(中期日程) : 2020年 3月 8日(日)
- 健康保育学科
 - 推薦入試 : 2020年 1月30日(木)
 - 一般入試(前期日程) : 2020年 2月25日(火)
 - 一般入試(後期日程) : 2020年 3月12日(木)
- 看護学科
 - 推薦入試 : 2020年 1月30日(木)
 - 一般入試(前期日程) : 2020年 2月25日(火)
 - 一般入試(後期日程) : 2020年 3月12日(木)

助産学専攻科

- 特別選抜入試 : 2019年 8月23日(金)
- 一般入試 : 2019年11月16日(土)

【大学院】

看護学研究科

- 一般入試・社会人特別入試(前期) : 2019年 9月28日(土)
- 一般入試・社会人特別入試(後期) : 2020年 2月29日(土)

地域福祉学科同窓会兼研修会

2月9日(土)に本学にて地域福祉学科同窓会兼研修会を行いました。第一部は高知からお招きした荒川泰士氏による講演で、事例を基に介護のやりがいや醍醐味などをお話いただきました。第二部はグループに分かれ自由に様々な話をしました。卒業年度、役職、職種は違えど同窓生という関係で話ができることに感謝し、笑顔と大満足で研修会を終えることができました。参加して下さった卒業生の皆さんありがとうございました。次回もお楽しみに。



新見公立大学2019オープンキャンパス 実際にキャンパスを見て体験してみよう!



第1回	7月15日(海の日)
第2回	7月28日(日)
第3回	8月25日(日)

日時 : 12:30~15:30(受付 11:30~)

会場 : 本学キャンパス

内容 (昨年実施例)

- 大学紹介・学科紹介
- 実習・実技体験コーナー
- 茶話会 ~在学生とのフリートーク~
- 個別なんでも相談コーナー

★入試・取得出来る資格・学生生活・就職状況等★

*ご参加希望の方は、開催日が近づきましたら、ホームページ上のオンラインフォームでお申し込みください。

★プレゼント
オリジナルグッズ
入試過去問題集
等

新見公立大学「地域共生推進センター棟」建設事業にかかる募金のお願いについて

現在、新見公立大学「地域共生推進センター棟」建設工事に掛かっており、2020年度からの供用開始を予定しています。

この事業で、地域共生推進センター棟内で使用する施設備品等の整備に多額の資金を必要とし、本学卒業生をはじめとする関係各位に広く募金をお願いしていること

ろです。

つきましては、出費多端の折、誠に恐縮に存じますが、趣旨をご理解いただき、施設備品等整備事業募金への協力方、よろしくお願い申し上げます。

振込の際は、同封の払込取扱票をお使いください。

まんさく

2019年3月号
Vol.57 (Spring)



編集 後記

本誌がお手元に届く頃、皆様におかれましては年度始めの慌ただしい日々をお過ごしのことと存じます。本誌に目を落とし、新見に思いを馳せていただく時間が、皆様の休息のひとつときとなれば幸いです。

さて、いよいよ2019年度から新見公立大学は完全四大化し、新たな一步を踏み出します。今回特集では2020年完成を目指す新校舎起工の様子と、互いに連携・協働して「人に優しい地域共生社会」の実現を目指す健康科学部3学科（地域福祉学科、健康保育学科、看護学科）の新たな取組をご紹介しますので、ご一読ください。

本誌の編集時期は、まさに入試シーズンのまっただ中です。全国にあまたある大学の中から、本学を選んでくれた受験者を目の当たりにして、その期待に応えていかなければならない責任の重さに身の引き締まる思いです。今後とも教職員が丸となり、福祉・保育・看護のスペシャリストを志す学生たちの育成に、なお一層力を注いでいく所存でございますので、皆様には引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。（平田）

発行

新見公立大学・新見公立短期大学

〒718-8585 岡山県新見市西方1263-2

TEL.0867-72-0634

FAX.0867-72-1492

URL: <https://www.niimi-u.ac.jp/>

広報委員会アドレス koho@niimi-u.ac.jp

(4月からはniimi-cがniimi-uに変わります。)

編集

広報委員会

広報部長

梶本 佳照

広報委員(50音順)

敦田 伸吾 岡本 直行 加藤 由美
佐藤 伸隆 棚田 裕二 羽場 裕倫
平田 智子 藤田 彩見 山内 圭
山本智恵子

新見公立大学ふるさと育英奨学基金(給付型)が始まります。

本学は、新見市の「ふるさと納税(ふるさとにのみ応援基金)」制度を活用した新しい給付型奨学金「新見公立大学ふるさと育英奨学基金」を2019年度4月から運用を開始します。この給付型奨学金を活用して、福祉・保育・看護を学びたいと考えている優秀な学生を応援し、保健福祉の人材を育成していきたいと考えています。

今後、皆さんからの寄付金を活用して、「給付型学生奨学金制度」を維持していきたいと思っています。母校への寄付が、保健福祉をリードする人材の誕生を支えます。母校で学ぶ後輩の夢を応援してください。

2018年12月末現在、ふるさと納税制度を利用し、本学に対し**155件、計5,539,971円**のご寄付をいただいています。引き続きご協力をお願いします。

ふるさと納税

ふるさと納税は、自分と関わりが深い地域を応援したいという思いを活かすため、地方公共団体に対して寄付を行った場合に、所得税と個人住民税が軽減される制度です。

お申し込み方法

以下の方法でお申し込みいただけます。

A. インターネットからお申し込み

- 新見市ホームページの「電子申請サービス」からお申し込みできます。以下のアドレス
新見市ふるさと納税ホームページ
https://www.city.niimi.okayama.jp/kurashi/kurashi_detail/index/1259.html
- ふるさと納税サイト「さとふる」からお申し込みできます。以下のアドレス
さとふる新見市ふるさと納税ホームページ(クレジットカード等でできます)
<https://www.satofull.jp/city-niimi-okayama/>

B. 郵送、FAX、メールでのお申し込み

学報「まんさく」に同封しました「新見市ふるさとにのみ応援基金 寄付申出書」に必要事項を記入してください。その際に寄付金の使途目的を『ゆたかな「文化のまち」』に指定し、「うち新見公立大学・短期大学」に寄付金額を記入してください。記入後は、郵送(岡山県新見市新見310-3)またはFAX(0867-72-6243)またはメール(kikaku@city.niimi.lg.jp)で新見市役所企画政策課へ送ってください。

【お問合せ先】

新見公立大学・短期大学事務局学務課 TEL: 0867-72-0634

2018年度 進路状況 (3月6日現在)

(単位:人)

学部・学科	内訳	卒業	専門職	一般職	進学
健康科学部看護学科		66	62	0	4
助産学専攻科		6	6	0	0
幼児教育学科		53	53	0	0
地域福祉学科		50	40(1)	0	9

※()内は未定者数

「閑日」

学内美術鑑賞

小林易夫 油彩



「閑日(かんじつ)」とは「ゆったりとした日」のこと。自宅に流れる緩やかな時間、その時間に浸る人々を、葉を十分に張り太陽の光を全身で浴びる植物に置き換え表現した作品。癒しや和を象徴する植物の緑が、キラキラ、生き生きとして美しい。人々の心が癒され充実していく様を見事に表現した秀作である。

(幼児教育学科准教授(造形): 岡本直行)